

6月麻績村教育委員会定例会議 会議録

令和4年6月2日(木)

午前9時30分～

地域交流センター第3・4研修室

出席委員 職務代理 市ノ瀬淳一 委員 小山正文
委員 宮下温子 委員 小松小百合
出席職員 麻績保育園長 塚原京子 麻績小学校長 佐々木英明
筑北中学校長 臼井伸明 教育長 加瀬浩明
次長 臼井太津男 子育て支援コーディネーター 高野智弘
主事 龍頭詩織

一 開会(臼井教育次長)

定刻となりました。令和4年6月の麻績村教育委員会定例会を始めます。
よろしく願いいたします。

二 教育長挨拶(加瀬教育長)

三 報告

臼井次長: それでは、報告事項に移ります。教育長報告をお願いします。

1. 教育長報告

教育長: お願いします(以下、資料に沿って説明)。

臼井次長: ありがとうございます。只今の教育長報告についてご意見等ございましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは、続いて保育園長報告に移りたいと思うのですが、その前にこちらのほうから1点、従来は保育園長と学校長という報告になっていたんですが、教育長あるいは教育委員会の方針ということで、0歳児から18歳までという部分もありますので、0歳児から未就園の部分を担当する特にひだまり広場を中心とした子育て支援の関係につきまして、今回の定例会から子育て支援コーディネーターより報告させていただければと思っております。今回につきましては一番最後のほうに位置付けますけども、次回以降一番最初に子育て支援コーディネーターのほうから報告させていただいて、年齢順というのも変なんですけど、そういう形での報告にしていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。ではまず園長先生お願いいたします。

2. 学校長・保育園長報告

1) 保育園長報告(塚原園長先生)

塚原園長: よろしくお願ひいたします(以下、資料に沿って説明)。

白井次長: 只今の保育園長報告についてご意見等ございましたらお願ひします。

小松委員: おにぎりデーなんですけれども、すごく良い試みだなと思ひまして、いつも一斉給食とか与えられたものじゃなくて自分で選び取った場所で、握ってもらったおにぎり、すごく良い経験になると思ひます。それで田植えということがあって泥遊びもできたということで、すごくこれも良い経験だと思ひんですけれども、保育園自体いつも身近に泥ってあるんですか。

塚原園長: ありますね。砂場は、小さい砂場と大きい砂場があるんですけど、真ん中に赤土の、固くなっちゃっているんですけど、今度保護者作業があるので、ちょっと柔らかくしてもらおうのと、毎年土を増やすために予算を取ってあるので業者さんにお願ひして、赤土が入ることによって本当にどろんどろんになる環境はあります。

小松委員: 良かったです。それとマスクなんですけれども、やっぱりコロナの生活が始まってから特に小さい子が、周りの大人がみんなマスクしていることによる影響ということで、やっぱり脳にも少し影響があるんじゃないか、月齢が小さければ小さいほど、ということもわかってきたようなんですが、やっぱりその後の大人の関わりとか周りの関わりによってそういうところが大分カバーできるという報告も出てきているようなので、なのでやっぱり周りの大人は意識してそういう子どもたちが全然不足している部分というのを補っていかなきゃいけないと改めて感じました。そういう点で意識しながら表情ということも考えて、特に保育園は小さいお子さんもいますので気を付けたいなということと、あと保護者の関わりもやっぱり、家に帰ればマスクはないんですけれども、でもやっぱり意識してあえてそういう子どもの表情とかそういうのを、ジェスチャーとか交えると良いという話もありましたので、気を付けていきたいと思ひます。

塚原園長: 遊びの中では今も付けてはいないんですけど、主に給食を配っている時に喋ってしまつてというところで今までは付けてはいたんですけども、習慣と言いますか、子どももマスクを付けて待つ時間は静かにするというのが何となく今、それが良いのか悪いのかというところではあるんですけども、夏の間はもちろんエアコンをつけながら室内環境を整えていこうかなと思ひんですけれども、外に例えば交流に行くときにどうなのかなというところはまたご相談しようかというところなんですけれども、お散歩とかそういったところは一切やつて行かないですので、保育士のマ

スクにおいてはやっではいきますけれども、表情とか伝え方というところは工夫していきたいと思います。

白井次長:他いかがでしょうか。

白井校長:田植え体験というのが保育園で、ちょっと独り言になっちゃうんですが、やれば良いんだけど、何か田植え体験保育園でわざわざやらなくても良いかなとふと思ったんですけど、こんなに田んぼ周りであって、どこかの家に連れて行ってというか、授業というかそういう活動として保育園の流れの中に入っているから、それはそれであれですけど、小学校の場合は稲を田植えすることによって体験も入るんだけど、たぶん教育課程で稲の成長だとかそういうようなところ勉強するけど、この麻績の中で田植え体験というような、独り言になっちゃうけど現状というかそういうようなことというのは、寂しいなと思いました。

塚原園長:今、機械で植えてしまうじゃないですか。同居していないというところもあったりするんですね。それぞれ麻績に居ても、若者定住に住んでいて、田んぼがあっても行かない、やらない。たまたまこの田植えというのが、松本のささべ幼稚園（幼保連携型ささべ認定こども園）との交流というところから始まってずっと継続しているんですけども、今回はコロナのレベルの関係で「別々に行いましょう」というところで別々に行ったんですけど、そうですね、確かにそれもあります。

白井校長:交流という今の話があれば、交流のために、目的がそういうところにあるということであれば、「おおそうか」とちょっと思います。

塚原園長:秋になると、秋になってコロナの状況で、ささべ幼稚園と交流する同じ田んぼに半分ずつ植えたんです。なので「稲刈りは一緒にできると良いね」というような予定はあります。

白井校長:その田植えはやっぱり想像すると、そんなになくても良くて、これで畦の^{あぜ}ところ歩かれて水の中落ちこちちゃうのも怖いので、たぶん安全策を取ると思うんですけど、稲刈りとかね、ただあそこら辺のところに行って蛙がびよんびよん跳んでいるのを遊んだりとか、そういう空気に触れる機会っていっぱい近所にあるから、そういうようなところって保育園で促すわけでもないと思うんだけど、なんか近くにいっぱいそういう環境あるのに寂しいな、と思いました。それは各家庭によると思うんですけどね。別に良いか悪いかじゃないんですけど、「田植え体験かあ」とちょっと思っちゃいました。

塚原園長:色々な狙いは含まれているというか、あるんですけど。

小松委員:でも、させたい経験ですよ、小さいころに。泥のあのどろどろとしたぬめり感とか粘り感とか。

白井校長:それを体験することって、どろどろ感だとか気持ち悪いなんかあの、嫌じゃないですか。そういうのは必要だから、やっぱそれは保育園でやらなき

やいけないということなのかな。

小松委員:それが結局うちもほら田んぼが無いと、他所様の田んぼ行って「ちょっと入らせてください」というのもなので、知り合いの田んぼ持っているお家手伝いに行って入れたり、でも保育園でやってもらえれば本当にありがたいはありがたい。

白井校長:今のこの時代ってことですかね。

小松委員:そうですね。でも経験させたいですよ。

塚原園長:実際に先程も話の中には入れなかったんですけど、豊作を願っての修那羅山安宮神社の神主さんに来てもらってお祈りして豊作を祈っての儀式もやってもらって、「こういう風にしてやるんだよ」「昔はこうやったんだよ」というところも OMIMO の方に体験させてもらったというか、そういったところ本当にありがたいし、また収穫前も鎌を持っていくんですけども、脱穀とお米研ぐという過程はやらせていただいて、ただここ数年できなかつたというところもあって、今年の子たちは年少から入って行事があまり経験できなかった分本当に良かったなど、お家の方も田植えすごく楽しみにというか、行事が楽しみでという面では逆に良かったかなと思いますので、色々な課題はあるかなと思います。

白井次長:他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは続いて小学校長報告に移ります。小学校長お願いいたします。

2) 小学校長報告(佐々木校長先生)

佐々木校長:よろしくお願いいたします(以下、資料に沿って説明)。

白井次長:只今の小学校長報告についてご意見等ございましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは続いて中学校長報告に移ります。中学校長お願いいたします。

3) 中学校長報告(白井校長先生)

白井校長:よろしくお願いいたします(以下、資料に沿って説明)。

白井次長:只今の中学校長報告についてご意見等ございましたらお願いします。

教 育 長:今、部活動のことが多く出されたんですけど、実際には文科省のほうでは令和5年を目安に中学校の部活動はもう、中学校から部活動は簡単に言うとなくと、地域への移行というような形ですので、従来のそれぞれの学校で部活動で学校対抗で大会をやるというようなことはもう完全に不可能な状況になってきているというような方向に、完全に流れています。今日また最後のところで地域部活動の推進事業というようなこととお話をさせていただきましても、先日中学校のほうと合わせて県教委のほう

からその指導をいただき、今後の方向性、簡単に言うところもかなりね、今の話の通り大きな枠で子どもたちがやりたい種目ができるような方向へ、という形になると思いますので、いずれにしてもその方向を、今年ちょっと予算をいただいていますので、やっていくと。形を色々工夫しながら考えていくという今年段階になるかなと思います。いずれにしてもこれで中学校から部活動というものが消えてしまう、それもなんか良いのかなというのものもあるし、ただ文科省がそういう方向で全体に、それから中体連等に関しても、もう方向性を学校対抗をやめて地域の大きな範囲での大会等にすることが決定されています。そんな方向でまた一つひとつここでできることをやっていかねばと思っていますところですよ。

白井校長: ちょうど昨日、新聞で出たじゃないですか。色々な所でやっていて、教務会があったんですけど、教務会でも「どうなるんですか」と話をする教員がいたんですけど、「学校だけじゃどうにもならないので、一旦はそういう視点も受けたりしておいて、教育長さんとか次長さんとか教育委員会のほうで調整をしてもらいながらそれに従ってやるよ」というような話をこの間して、北部の校長会もあったんですけど、北部の校長会でもやっぱり中学校の校長の中では「部活どうなるかね」なんていうようなことを話しているの、ちょうどやっぱり移り変わりのところで対応を考えたりしているところがあるのかなと思いますので、またよろしくお願いします。

佐々木校長: 中体連は解体されないんですか。

教育長: 中体連というのは、どっちかと言うと「中学校」体育連盟という言い方なんだけれども、形として「中学生」体育連盟みたいな形で、学校対抗ではなくてもっとこう広い、ここで言えば北部地区、地域全体になっちゃうのかな、それで1チームみたいな感じで進んでいくしかもう。特に団体種目に関しては、多くの学校でもうできないという状況かなと思います。

白井校長: バスケは、本当に意外と筑北中で単独チーム作れるんですけど、でも現状で言う「教えてくれる、指導してくださるお家の方が、どこまでやるかというのはちょっとわからない状況だ」という話があるので、指導者をこの地域の中とか、外から来てもらう人を探すとかという、仮にそうなった場合、指導者とかというのは難しいなと思います。

教育長: 非常にね、そこが今後の課題。方法だけ出てはいますがね。

白井校長: 仕組みだけ出てはいますがね。

教育長: はい、そこだと思います。

白井校長: よくあるケースは、「うちの子どもがいる間は指導するけど、うちの子どもも居なくなっちゃったらやっぱり面倒くさくなっちゃった」というケースがあるので、そこがそういう人がどんどん出てくるみたいな、それか繋がりのあるこうやってが、まだこれからだと思んですけど、そうやっていくとまた夢が膨らんでくるという感じがするなと思んですけどね。

教育長:もう少ししたら剣道はやらさせていただきます。

白井校長:もう少ししたらですね。やっぱり職員の中でもそういうのあるから、たぶん保護者からもそういう話って来ると思うので、「『一応こういう指定を受けて、今検討しているところです』という風な形で話しておいて」という風にはしておきますが、それで良いですか。

教育長:はい。いずれにしても大きく変わるということだと思います。

市ノ瀬職務代理:50年で全く変わっちゃいましたね。10年前に合同チームが許されるというところだったのに、もう合同でもできないですね。

白井校長:もう野球なんて、穂高の安曇野だって、穂高の西東が一緒だとか、堀金が付いてとか、もう野球は単独というところはそんなに多くないかなと思います。

小山委員:競技色々分散するってこともあるんでしょうけどね、高校だってそうでもんね。相当広範囲で合同チーム作っていますから。

宮下委員:吹奏楽部は今年0人となっているんですけど、どういう感じですかね。

白井校長:今年は生坂と合同バンドと言うんですかね、やってその点について移動、生坂の楽器を使う方が中心なので、筑北の子が行くということで、次長さんとかに相談をしながら移動については村バスを使わせていただいたり、半々くらいお家の方の負担ですかね。半々くらいでお家の方、村バスというような形で対応していただいているので。まあでも子どもたちの表情は悪くないので、交流してやれたら良いかなと思います。

宮下委員:小学校で金管バンドでね、そこで音楽皆馴染んでいくというかそういう面もあって、そこで0かと思って、ちょっと寂しい思いはあるなというのが印象でした。ありがとうございます。

白井校長:男の子、女の子という分けはできないけど、今年は女の子少人数なので、だからという訳じゃないとは思いますが。

宮下委員:少ないんですよね。

白井校長:どちらかと言うと運動に男の子行っちゃったという感じですかね。

宮下委員:はい。

白井次長:他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは続いて子育て支援コーディネーター報告に移ります。子育て支援コーディネーターお願いいたします。

4) 子育て支援コーディネーター報告(高野CO)

高野CO:よろしくお願ひいたします(以下、資料に沿って説明)。

白井次長:只今の子育て支援コーディネーター報告についてご意見等ございましたらお願ひいたします。

教育長:利用者の減少のところ、実際にコロナウイルス感染症のためにそこ自体

を閉鎖した期間もありましたので、それもやっぱり大きく影響はしているかなと思います。ここに来て大分戻ってきたというような状況かなと思っています。

白井次長:他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、協議事項に移ります。

四 協議事項（加瀬教育長）

(1) 保小中給食室の現状と今後の方向性について

教育長:それでは本日協議事項3点ございます。冒頭に申し上げました通り、給食室のほうが実際に故障する機器等出てきて、非常に状況が良くないということで、お願いをいたします。(2)と(3)につきましては、教職員の任用と人事に関する事、それから本年度の就学援助等の個別の認定でありますので、傍聴者の方申し訳ありません、(2)と(3)のところに関しては非公開とさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。それでは、次長のほうから具体的に説明させていただきます。

白井次長:お願いいたします（以下資料に沿って説明）。以上です。

教育長:ありがとうございます。かなり年数も経過して、それぞれのところで、この前は中学校のほうで故障してしまって、見てもらったけども「もう部品もないよ」というような状況のところまで来ているということでありませう。それぞれ保育園、小学校、中学校の園長先生、校長先生方から何か状況等ありますか。

塚原園長:大きい冷凍庫と小さい冷蔵庫があるんですけども、小さい冷蔵庫という野菜とか、次の日の食材入れる冷蔵庫、冷凍の部分。後、検食で冷凍していたところの冷凍庫が全部ダメになってしまったので、今ちょっと寄せて、どうしても夏場とか作ったもの、サラダ類なんかはすぐ冷蔵庫に入れて冷やさないといけないので、要は園児さん、できたものを冷蔵庫に入れるスペースもなさないといけない、でもちょっと寄せてというところで今ちょっと何とか回しています。

教育長:小学校はどうですか。

佐々木校長:小学校はここ数年出したのはパススルー冷蔵庫。やっぱり作った食材を昔は食器もみんな一緒にしておいても良かったけど、サラダ類とかはもう作ったら冷蔵しておかないといけない、けどそれが冷蔵しておいて子どもたちがそこからすぐ取り出せるようにしておかないといけないんだけどそれがなくなるとかあるのと、本校で見ればアレルギー対応食も今年1人、強いお子さんがいるので別メニューなんですね。結局お1人の方がお1人に付くので、それを同じ場所で調理しているというのは本来はもう今は×だと

思うんですけどあるということと、昨年、一昨年の県の研究会が本校で行われて、全部1日見ていただいたときに、やっぱり古い設備に色々な必要になってきたものを付けていったんだけど、昨年もうちもオープンが1回故障して「次はないよ」と言われたので、かなり老朽化は進んでいるなと思います。

教育長:中学校はどうですか。

白井校長:自分とすれば、全部改築してほしいという、動線と言うか、栄養士が調理室に入る時に、一旦部屋があってそこで着替えをして入るのが通常だと思うんですけど、今の構造は配膳と言うか調理したものが出ているところから横から一旦入って、小部屋があってそこで入るんだけど、着替えとかしないでそのまま調理室を通過して向こうに行って、着替えをしてこうやって入ってくる、なので今はそれが気になるということなので、「一旦職員玄関から外に出て、ぐるっと回って体育館の横を通過して入口から入って私やります」ということでやっているのもうそのレイアウト自体が、動線も色々あるんですけど、そういうところなのでちょっと全面とかということかなと思います。後、水道が今年の1月の辺りのところは凍ってしまうということで、前の次長さんと教育長さんと相談をして、冬の間は、年末年始の辺りはエアコン焚いて、暖房のほう、自分も元旦にちょっと様子見に行ったんですけども、そうやって水が凍ってしまうという現状がある配管ということなので、オープンは壊れ壊れやっているみたいなんですけど、だからどこをどういう風に直すかというのはちょっとわからないんですけど、今は給食は出ているけどやっぱり変えたほうが良いところがたくさんあると思います。

教育長:ありがとうございます。そういう状況であるということで、ここですぐ結論ではないんですけども、ちょっと委員の皆さんから少しご意見お願いします。

市ノ瀬職務代理:自校給食の素晴らしさって本当に私も現役の頃感じていて良いなと思うんですが、ただしこの小規模の学校、保育園含めて3つですかね、給食センター化もやむなしじゃないかなと思います。

教育長:他いかがでしょうか。

小松委員:実際お話聞けば、もう既にどうにもならないところでダメっていう、時代共にね、そういうのであれば、例えここで直したり工夫したりしたところで、もう動線がダメとかそういうことになってくるとやはりちょっと考えないといけない、元からそれこそ給食センター化と言うか、ちょっと考えなきゃいけないのかなという気がします。それでもやっぱり自校給食の大切さと言うか、そういうところもありますので、例え給食センター化しても地域の特徴をちゃんと伝えられるような、そういうところは考えていかなくちゃいけないかと思います。

教 育 長:他いかがでしょうか。

小山委員:今の2人とも私も同じ意見なんですけれども、やっぱりその費用対効果で考えていくと、調理器具1つ2つ入れ替えだけじゃ済みそうな感じじゃないということで、何かやっぱり将来を見据えてもうその3つの小中保育園をどこか1つのところで集中制にするというか、そういうほうが効率的なような気がします。

教 育 長:他いかがでしょうか。

宮下委員:こんなに年数が経っているということも今日初めて知ったんですけれども、毎日のことなのですごく大変な思いをされて作られていたんだなと、ここでも保小中の連携、まずやっぱり食からですかねと聞いていて感じました。

教 育 長:保育園はまたちょっと違う事情があるんだよね。

塚原園長:違うんです。保育園は今未満児さんが多いという現状、離乳食を作らなくてはいけない。午前のおやつも手作りで今お芋とかやってもらっている、もうそれは9時30分には間に合わせる。給食も小さい子に合わせて11時までにはでき上がらなきゃいけない。午後のおやつもあるんですね、それも15時までには間に合わす。やっぱりその段階、離乳食は細かく刻まなくてはいけないし、未満児さんは以上児さんよりもちょっと小さく切る、以上児さんは大人と同じ大きさ、その切り方というところも、後時間の提供、時間が分散させて1回の給食ではない、分散して作らなくてはいけない現状があるので、それを持って来るとか、場所、そこは厳しいかな。やっぱりそのアレルギーも、同じ場所で全部鍋とか調理する物はもう別にしてやっていたんだんですけれども、その対応とか離乳食もその年によって違ったりとかするので、そこら辺色々課題はあるのかなというところが実際、もう午前おやつなんかは給食室に取りに行かなくちゃいけないし、誰もそれは用意ができないので、という現状はあるので、実情です。

教 育 長:保育園の実情は0歳から居るので、かなりこう状況としては別だという感じですね。

宮下委員:保育園は別ですよ。

塚原園長:そうですね。

佐々木校長:ただその今のね、アレルギーというので、結局その子に見ていくので、センター化して離れたところで作られたものが運ばれてきてということは、ある意味危険もあるというか、本当にその場で顔を見ながら作っているし、今だと1年生のお子さんには本当にその日の食べの様子とかも思い、他の子たちと違うメニュー出さなきゃいけないんだけど、その1つにその子が同じように喜んでくれるようにすごい考えて作っているんですよ。そういう顔を見ながら作る、臨時休校のこの期間、本校はランチルームで栄養士さんや調理員さんも一緒に食べる給食がこの本村の売りだった訳です

けど、できなくなっちゃったんだけど、教室からちょうど調理場が見えて、教室の窓にホワイトボードで子どもたちが調理員さんたちに毎日メッセージを書いたんですよね。それでホワイトボードで文通じゃないけど毎日メッセージ交換はしていて、こういうことがやっぱり、地域の食材を使ってとかそういうことはできるんだけど、やっぱり作っている人のその時の思いとか、食べている子どもたちの顔とか、それが見えるというこの良さはやっぱり如何ともしがたい、やっぱり自校給食の良さだね。

教育長:食育そのものだね。

佐々木校長:本当にこれだなって思いました。

教育長:まあ様々な課題があって、事情をお聞きするとね、色々なことが出てきますが、方向性としてはもっと詰めていかなければいけないんですけれども、我々もこう自分のところの状況等もわかっていない部分もあったりしますので、給食室ということだけに限らず、この前次長が筑北村のほうへ行って見せていただいたというようなところがありますので、我々もそういう施設だとか、そういう状況等について視察というような形できちっと認識することは必要かなと思っています。そんなことも含めてまた計画させていただきたいなと思いますので、継続の審議でお願いできれば、今日はこういう状況を知っていただくということで設けさせていただきました。その他いかがでしょうか。

白井校長:給食室は、自分は自校給食が良いと思います。やっぱり顔が見えたりとか、調理員さんも近くにいて子どもたちの様子やなんかを見たりするというのがモチベーションに繋がっていくと思うので。小山委員さんが言っていたところの、例えば更衣室全面改築するというのであれば、それで体育館の屋根が雨漏りバンバンなんですよね。施設面のそういう給食ということは第一に考えてはいただきたいんですけれども、そういう回りの、今日も嶋田設備さん入って色々直してもらったりとか、そういうような毎月のように来ていただいて施設を直してもらっているということと、中学校 40 歳、同じくらいの年だと思うんですけど小中のところの、今の時代に合っても丁寧に使っていて良いんですけども、そのところの小中一貫ということを打ち出してということであれば、「もしかしたら近くに居るんであれば 1 つの場所に」とかってお話しいただいたんですけれども、そういうことも一緒に考えていただければ次に繋がるのかなと思います。

教育長:ありがとうございます。他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それではこれに関してはまた継続の審議で続けていきたいと思いますので、よろしく申し上げます。それでは、次に移ります。

(2) 教職員の任免及び人事等に関する事項について

教育長:事務局からお願いします。

白井次長:お願いします（以下資料に沿って説明）。

※ 教職員の任免及び人事等に関する事項につきましては非公開とします。

教育長:ありがとうございます。それでは次に移ります。

(3) 令和4年度 就学援助対象児童・生徒の認定について

教育長:事務局からお願いします。

龍頭主事:お願いします（以下資料に沿って説明）。

※ 認定結果につきましては個人情報になりますので、非公開とします。

教育長:ありがとうございました。協議事項以上でございますが、何かありますか
ね。実際に最初の給食室のことに關しては、はっきり言うと白井校長先生
が言われたように、学校全体のところをどうしていくかという大きい問題
に關わってくるなどは思いますので、ただまあ実際に現状のところ
でそれぞれの給食室を全部改築していくと、これもまた非常に大変な
ことで、余計にお金が掛かっちゃうという。学校自体ももう50年とい
うことで、そうは言っても10年、20年のところで何とかしなきゃ
いけないというものが、もう間もなく給食室だけではなくて全部が
そういう形になるんだろうなと思うんですが。

白井次長:学校給食につきましては、前回の改修の時点が、床がウ
ェットの状態からドライ方式に変わるといのが一番大きなところ
であったので、それにもう変えざるを得なかったという部分もある
んですけど、あとは大規模改造に合わせたというところもあります
ね。ただそれからそういう時間が経てくると、しかも毎日使ってい
るもの、現場の人の苦勞を考えたらというところもあれば、何らか
の対応はしていかなきゃいけないなと思います。

白井校長:校舎も含めて全部改修するというのが一番良いとは思
うんですけど、でもそれを待っていると給食室が、調理棟が待た
なきゃいけないことになるということですかね。

教育長:それも毎日のことだからね。

白井校長:だからどっちを先にするかということですか。

教育長:大きな課題が。

白井校長:これを申請すると、2年くらいとかでできるんですか。

白井次長:基本的に申請自体はやる年度の前年の、今年で言え
ば5月なんですけど、通常6月なんですけど、5月に来年の計画
をとりあえず上げておかないともうそれが土俵にも上らないとい
う形になります。通常のとこというのは今まで「ここが足りない」
「あそこが足りない」と計画的にやってきた部

分なんですけど、今回についてはちょっともうというところもあったので、とりあえず手は上げてはいるんですけど、もう本当に金額部分、設備全体を変える金額はある程度1,400万くらいということで見積は取ってあるんですけど、その他それ設備だけではダメなのということで、がわた（周り）のどこをいじるかということについては、本当のちょっとしか数字を付けていないので、実際それでできるかと言ったらちょっと非常に不安なところではあります。とりあえず仮に改修するという形に、根本的なところにはなっていないと思います。通常であれば令和5年度の事業なんですけど前倒しでできるかどうかという調査も今来ていますが、今具体的な部分がないので前倒しはちょっと不可能ということで回答しています。なので、通常であれば令和5年度の事業という形になりますが、途中でもしまたセンター化とかもうちょっと根本的なことになれば、手は下げることはできるんですけども、そうすると今度そのセンター化する部分をいつやるかというところでまた計画に載せていかないといけないというところではありますので、ちょっとその補助の部分には難しいかなと、なかなかハードルがあるんですけどただ補助の要望をしていけば大概は大丈夫な形になりますけど、補助率は大体1/3になります。1/3なんですけど、実際に改修する面積に合わせて建築単価が計算されて、どっちか実工事費と高いほう低いほうという形になるので、通常は1/3満額は来るのはなかなか難しいかなという形になります。

教 育 長: ちょっと一応まあ状況等を今日はお知らせをさせていただいて、継続審議で行きたいと思いますが、そう考えていくと本当に「学校全体どうするんだ」というところへ行ってしまうし、当然こういう状況がわかってくれば議会のほうからもそういったところから出てくるだろうなと思いますので、今後の、はっきり言えば「麻績村教育どうしていくんだろう」ということを検討していかなければいけない今年度であると、それ自体が次の振興計画のところに反映されてくるだろうなと思いますので、ちょっと今日のところはこんな形にさせていただきますけども、よろしくお願ひします。それでは協議事項のほうよろしいでしょうか。ありがとうございました。それでは、その他に移ります。

五 その他

1) 各委員から

教 育 長: その他ですが、各委員さんのほうから少しお話をいただきたいと思います。それでは小山委員さんのほうからでよろしいですか。

小山委員: はい。中学のほう報告にありましたけども、小中連絡会、小学校の担任の

先生が中学に行かれたりして、本当に小中の連携が少し深まっているかなと思いますので、引き続きそういう形で連携を密にさせていただいてお願いしたいと思います。

教育長:ありがとうございました。宮下委員さんお願いします。

宮下委員:昨日なんですけれども、放課後子ども教室を小学校のグラウンドで子どもたちが活動している姿を見て、「少しずつ活動が始まってきたんだな」という印象を受けて、外で走り回っている子どもたちの姿を見て「良かったな」と感じました。これで小学校運動会があったり、今まで小さくなっていったイベントが少しずつ戻りつつあって、そういう様子が見られることはすごく保護者の喜びだなと感じているので、コロナもちょっと下火なのかなというような部分もあるんですけれども、まだマスクの部分もすごくこう、小学校、中学校の子たちがどういう風に考えているのかなというような部分も色々感じることはあるんですけれども、その度状況見て学校のほうで発信していただけたら保護者はすごく安心する部分があるので、混乱もないのかなと感じるので、お知らせしていただけたら嬉しいかなと思います。

教育長:ありがとうございました。小松委員さんお願いします。

小松委員:今放課後子ども教室のことも出ましたけども、おみっこ元気クラブのほうもいよいよ始まるということで、やはり単独で運営していくのなかなか大変だと思いますので、前回も言わせていただきましたが、ボランティアとか既存のグループとかそういうところを上手く連携取りながら、巻き込みながらまた村全体でサポートしていけるような、ゆくゆくはそういうシステムが構築された上でこういう活動がなっていけば良いなと感じます。それと、ひだまり広場のことも情報も載ってきていますので、やはり未就園児・未就学児、それ以前のサポートというところも、割とお母さんたちに会うと子育てのちょっとした悩みとか、そういうのもなんかこう「こういう時どうすれば良いんですか」なんて聞かれることもあったりしますので、そういう声に的に密にサポートしていけるようなそういうところも支援としてしっかり入っていけば良いかなと感じました。

教育長:ありがとうございました。市ノ瀬先生お願いします。

市ノ瀬職務代理:先程の報告のところでもお話すれば良かったんですが、この会に子育て支援コーディネーターさんも参加されるようになって、先程ひだまり広場の報告もされたんですが、それ以外の、コーディネーターさんが関わっておられる特別に支援を要する子どもたちへのその後の進捗状況と言いますか、状況なんかも触れてご報告いただけるとありがたいかな。サポート会議等も進んでおられるかと思うんですが、そんな様子もお話していただければありがたいかなと思います。

教育長:ありがとうございました。これにつきましては次回から対応したいと思

ます。いずれにいたしましても、このところで保育園、小学校、中学校のところはしっかりとやっているんですけど、その前の段階0歳児からのところ、それと中学を卒業した後18歳までのところ、このところが私最初のところでお話した通り、「0歳から18歳までというところでトータルで支援をしていきましょう」ということになるかと思えます。教育委員会としても中学卒業後のその進路だとかいうことをきちっと把握していなかった部分が今まであります。そこら辺のところも含めて手を入れていきたいなと思っているところでもあります。よろしく願いいたします。それでは連絡事項になりますけども、事務局からお願いいたします。

2) 事務局から

白井次長: お願いします。それではまず麻績村議会、明日から、先程教育長のほうからもありましたが、6月定例会が始まります。本会議の日程的には明日開会をして、8日に一般質問、10日が提出した議案の審議採決という形になります。お手元に別添で綴じ込みの資料で「一般質問通告事項」ということで、議員さんの一般質問についての内容と要旨を記したものをお配りしております。教育委員会関係で関連したものをご説明いたします（以下資料に沿って説明）。以上です。

教 育 長: それでは続いて地域部活動推進事業に係る県教委との協議についてお願いします。

白井次長: お願いします。先程教育長のほうから詳しくご説明がありました、また中学の校長先生のほうからも「大きく新聞に出ていましたね」という話で、ちょうど昨日の信濃毎日新聞のほうに「中学 休日部活 地域移行」ということで大きくクローズアップされていまして、また地域面のほうでも松本市の地域移行の部会を、初の検討会をしたというような状況があります。20日に県教委の方が来まして、説明をしていただきました。要は地域に移行していくにあたってまずその移行の組織、検討会のようなものを作って、それでできるところから進めていくというような段階になるかと思えます。今年の場合は国のモデル事業ということで、基本的に掛かった経費、計画では色々な資料の中で80万ということを目安にしているんですけど、その部分について全額10/10の補助が来て、実施ができるということでもあります。それは指導者における謝礼に使うこともできますし、車が必要であれば車の借り上げ料だとか、後は運転手の謝礼だとか、それぞれ色々使うことはできるんですけど、あくまでも今年1年の補助というかモデル事業であるということでもあります。ただ長野県の場合につきましては、元々合同部活動とかそういう部分に対しての部活動支援の指導員も地域に移行するということは先んじて県の単独補助で来ているような状況もあって、そちらの

ほうには今うちのほうもその補助ができてから乗っかっておるというところもありまして、今は地域の、中学校の部活につきましては村費対応の先生を充てて、その謝礼を部活動指導員という形にしております。ただ、国とか一番本当に目指す部分につきましては、地域の指導者があたっていただくということで、それが最初はきっかけとして休日ということになりますけども、近い将来すぐに全面移行という形になってくるということになると、新たに地域指導者を発掘と言いますか、実際には居たとしても通常であればやはりお勤めしているとかということになってくるので、なかなか中学の部活の時間に合わせることはできないかなと、そういうことも含めた中でが必要になってくると思います。また、今色々お世話になっているプロスポーツチームだとかスポーツ団体とかの方からまたご指導、ご支援をいただく、もちろん金額が発生することでありまして、そういう形も両面で想定しております。それと地域の基底スポーツを考えるということになれば、筑北村近隣、あるいは生坂村というこの近隣の中での連携、あるいは共同実施というのが必須になってくると思われまして。その際もこの間の県教委が来られた時にもそんな話をさせていただいて、この県の後に筑北村の次長のほうにお話をしまして、「今後またお願いします」ということでまだまだ事務レベルではありますけども、そんな話もしておるところであります。ですので、やはり急激にこういう形で地域移行ということがはっきり謳われてきて、国はというかそこにやることについては一応支援をするという形を取っておりますけれども、実際人員的な部分を見るとなかなかまだクリアしていきなきゃいけない部分は多いかなと思っておりますが、一応今年そういう形で進んでいこうかと思っております。先程ちょっと今日県教委スポーツ課のほうから連絡も来たんですけど、なかなか今年モデル事業を他でも受けているところがありまして、そういうところもまだ具体的にイメージがなかなか湧きづらいということもあるので、まずは担当者の打ち合わせ会と言いますか、意見交換会を6月中に開催するというようになっております。まだ予算措置はこれからなので、次の補正予算に合わせて予算措置していけたらと思っておりますのでお願いします。

教 育 長:ありがとうございました。

白井次長:事務局からは以上です。それでは次回の日程に移ります。

次回の定例教育委員会の日程 7月4日(月) 午前9:30～

教 育 長:全体を通して何かありますでしょうか。

白井次長:1点言い忘れまして。このところにはないんですが、実は今小学校と中学校のほうにお願いをしているところなんですけど、早稲田大学の学生さん

が「麻績と筑北の給食についてちょっと調査をしたい」ということで来られます。実際には今日来るという予定なんですけど、明日3日に時間を小中で取っていただきまして、「栄養士の先生と児童生徒に給食のアンケートをさせていただきたい」ということでありますので、その部分は事前に送ってありますけども、ちょっと学校のほうお手間になりますけどもよろしくお願ひしたいと思ひます。地域の食材を使っている部分ということも質問にありますし、それに対して+αという部分、それから後よく言われます通り給食費の部分についてということもあるので、「複合的に調査をしたい」ということで、たぶん教授の先生も付いて来られるとは思ひますけども、うちのほうはたぶん学生さんは3名くらいで来られると思ひますので、すみませんがよろしくお願ひします。以上です。

教 育 長:他よろしいでしょうか。ありがとうございました。

六 閉会（加瀬教育長）

長時間にわたり、ありがとうございました。以上で6月の麻績村教育委員会定例会を閉会します。